

学会誌創刊にあたって

このたび、日本生活支援学会誌を創刊することとなりました。黒澤ゼミの前身から14年、そして2008年の学会の設立から5年目に入って、ここに学会誌を世に送ることは、生活支援学会の歴史に新たな1ページを刻むものと考えております。本学会は、設立当初から大変活発な活動を展開してきました。2ヶ月毎の研究会、毎年各地域で開催した研究大会等の活動が土壌となっており、このたびの学会誌の刊行となったわけですから、ここに学会として基本的な体制が整ったと考えております。いうまでもないことですが、発足したばかりの学会誌はこれから学会員の皆様のお力で育て発展させていくこととなります。もともと学会の存在理由は、研究成果を発表して社会に貢献する役割を担っています。そのためには、学会員の所属意識が必要となります。すなわち目的を共有する人びとと集い、学び、語り合う場が求められます。そのことは個人の達成意欲の問題ですが、同時に環境的な集団の相互作用が伴ってはじめて可能な道筋が見えてくるものと考えております。

創刊にあたって生活支援学会の意義と目的を述べておきます。生活支援学会の使命は生活支援の専門性を探求することにあります。専門性とは科学性を備えることといわれています。これを人間科学として体系的に構築することです。一言でいえば、ヒューマンサービスの科学性を見出すことです。そのうえで、多分野の学際的連携・協働が可能となるのです。これらの意味において、本学会誌の使命と役割は大きなものがあります。昭和30年代に私が障害者のリハビリテーションの世界におりましたときは、多分野の学際的な連携（interdisciplinary approach）の必要性を聞かされました。障害のある人に対して、医療・看護・心理・社会・福祉等の連携・協働が必要とされておりました。事実私はそのような実感をもって仕事をしておりました。しかし学会などでは、同じ楽譜を持たないオーケストラにたとえた連携の難しさを聞くと、それではどうしたらよいのかと思ったものです。しかし、私はその答えを十分見出せないまま、30年余り勤めた厚生労働省を退職し、高齢者介護の仕事にかかわり現在に至っています。その間わが国は、大きな思想的転換の時代に入りました。人間の尊厳の保持と自立の思想に基づく生活支援、サービス利用における主体性、選択と責任等の価値観です。オーケストラの例でいいますと、それぞれの演奏者の役割と個性に敬意を払うことで優れたハーモニーが生まれるのです。

これらの歴史の潮流は、新たな学問としての体系を構築する必要性が生じてきているのです。この問いかけに応えることが本学会の設立の目的なのです。そのことは学問が一人ひとりの生活の営みの視点から構築することを意味します。そして日々の生活の積み重ねが人生ですから、人間はいかに生きるかの、その人らしい生き方とはという哲学的な課題として考えることになるのです。

本学会誌は編集委員会が担当しました。岩井委員長を中心として、関西地区の委員の皆さんが忙しい業務の合間を縫って精力的に編集作業をしてくださいました。ここに学会として深く感謝の意を表します。最後に学会誌は学会のこれからの希望と課題を背負っての船出です。学会誌を手にとられた皆さんからのご意見・ご支援をいただきながら、さらにより学会誌を創っていくことを学会員一同願っております。

平成24年3月

日本生活支援学会会長 黒澤 貞夫